

こうち志議会

(こうちこころざしぎかい)

会 議 録

浅野朱音 議長：

これより高知市立中学校、義務教育学校、高等学校の生徒による令和3年度こうち志議会を開会いたします。本日、議長を務めさせていただきます、高知商業高等学校、浅野朱音です。よろしくお願いいたします。

まず、こうち志議会の開催に当たり、岡崎市長からご挨拶があります。岡崎市長。

岡崎 市長：

皆様、こんにちは。

コロナ禍の中ということになりましたが、令和3年度「こうち志議会」の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日開催されますこの「こうち志議会」につきましては、高知市の教育大綱にあります夢・希望・志を持って社会を生き抜く人づくり、これが教育大綱の目標の一つになっておりますが、その実現に向けまして、土佐の先人のように志を持ち自ら未来を切り開いていくことのできる人になってほしいという思いを込めまして、開催をするものでございます。ちょうど第5波と言われるコロナ禍の中の開催ということになりましたので、各学校の皆様方とここでお会いすることを楽しみにしておりましたけれども、それぞれの学校現場の皆様方、また教育委員会の皆様方のお力をお借りしまして、このようなオンラインという形になりました。

このこうち志議会であります。今回で4回目の開催ということになりますが、昨年度、去年の春からコロナの感染が始まりましたので、昨年度は開催が残念ながら見送りとなったところでございます。この新しい新庁舎ですけれども、ここの議場も新しくなりました新議場で皆様方とお会いできるということを楽しみにしておりましたけれども、この状況の中ですので残念ながらオンラインということになりました。

現在、県独自の非常事態ということになっておりますが、後ほどコロナの感染のご質問も出ておりますけれども、今日、ちょうど1時から国会が開かれておりますが、そこで報告をされたうえで、高知もまん延防止の指定地域に入るということで、今国会でその報告がなされている状況でございます。

今後また、我々も感染予防対策の徹底を図るということでございますので、またご質問にもお答えしていきたいと考えております。

この議場には高知商業高校の浅野議長さん、また愛宕中学校の小松副議長さんにもご登壇をしてい

ただいております。開催方法のWEBへの変更にあたりましては、浅野議長さん、小松副議長さんをはじめ生徒議員さんの皆様の協議、ご理解によりましてこういう形になりましたが、こういう形でも開催できるということになりましたので関係者の皆様方に感謝を申し上げたいと思います。

さて、高知市では、2011高知総合計画という計画を持っておりまして、今年度は2021年でございますがちょうど10年経ちましたので、これからの10年、2021年から2030年までの10年間の施策を体系的に示します高知市の総合計画の後期の基本計画を策定したところでございます。

これまでの志議会におきましてもたいへん有意義なご提言をいただいております。それぞれ我々も参考にさせていただきました。ちょうど本日からパラリンピックが開催をされております。パラリンピックアスリートの方々が、非常に多くの人々に夢や希望を与えるいろいろなパフォーマンスが今日から始まっております。夢や希望を実現できる社会、また未来について語り合うということは私たちにも非常に重要なことですので、皆様方のさまざまなご提言、またご意見を今日いただきながら、それをしっかりと高知市の政策の中で生かしていきたいというふうに思っておりますので、今日は皆様の提言を非常に楽しみにしております。今日はどうかよろしくようお願い申し上げまして、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。

浅野朱音 議長：

それでは一般質問を始めます。1番。城西中学校、田所優空議員。マイクをオンにして質問をしてください。

城西中学校 田所優空 議員：

城西中学校の田所優空です。高知市の新型コロナウイルス感染症対策についてお尋ねします。現在も新型コロナウイルス感染症は終息に至っておらず、これは、高知市も例外ではありません。都市部では緊急事態宣言が出されるなど、不要不急の外出を控えたり、3密を避けたりすることが求められており、リモートワークやリモート授業が進んでいます。

しかし、中学校は授業や部活動のためほぼ毎日登校する必要があり、外出は避けられません。また、学校では、一つの教室に30～40人程度が集まって授業をする必要があり、密の状態を避けることもできません。城西中学校では、アルコール消毒やマスク着用を徹底したり、換気を十分に行ったりすることなどを生徒会執行部が中心となって呼びかけていますが、これで十分なのか、不安になることがあります。

高知市は、新型コロナウイルス感染症に対してどのような対策を実施しているのか、根拠や今後の予定も含めて具体的に知りたいです。これらのことを知ることで、新型コロナウイルス感染症に対する意識がさらに向上し、自分たち中学生に協力できることは何かを考える機会にもなると思います。ご回答、よろしく申し上げます。

浅野朱音 議長：

岡崎市長。

岡崎 市長：

まさに喫緊の課題でございまして、皆様方には大変ご苦勞をかけております。先ほどの挨拶の中で

も少し触れましたが、今回も報告を受けておりました、今日の夕方、専門家会議のご意見を踏まえたうえで、政府として高知県が「まん延防止等重点措置」の対象地区になるということが正式に決定されるという予定になっています。

今は決定前ではありますが、これが正式決定されますと、8月27日の金曜日から9月12日の日曜日まで、重点措置の指定が適用されるということになりまして、これまでの県独自の非常事態よりも、さらにレベルが上がるという状況になります。まだまだ詳細は出てきていないところがありますし、学校現場が一斉に休業ということはないと文部科学大臣が言われています。一斉休業はないはずなのですが、学校現場の細かい運用も出るはずなので、我々もその点に気を付けて対応していきたいと考えております。

それぞれの学校の皆様方には、感染予防のためにマスクの着用、また手指消毒、食事をするときの黙食、おしゃべりをせずに静かに食べるということにご協力をいただいております、感謝を申し上げます。学校におきましては、新型コロナウイルス感染症に関します、衛生管理マニュアルというものが国から出されておりますので、それをもとに、学校現場の先生方のご指導の下で、さまざまな感染予防対策を行っております。おかげさまで、学校におきまして、校内の感染は発生していませんけれども、現況を申し上げますと、家庭内感染が非常に増えてきております。

子供さんの感染も非常に増えてきておりますので、年齢は様々です。幼稚園児、小学生、中学生、高校生、大学生など学生の感染が拡大してきておりますので、我々も嚴重にその対応を図っていききたいと思っております。

また6月に市の中学校体育大会、7月中旬に高知県の中学校の体育大会が開かれましたが、感染予防対策を徹底していただきましたので、その中での感染は確認されておられません。ただ、先ほど申し上げました通り、第5波の中で子供さんの感染は非常に増えてきておりますので、また万全の注意はしていただきたいと考えております。

コロナの対策の、分かりやすく言うと注意事項ですが、やはり、一つの傾向がありまして、例えば夏休み中にキャンプ場にバーベキューに行つて、そこで感染してしまった例、また、夏休み、お盆期間中に、ご親族の方々が高知に帰つて来ます、逆のパターンで県外へ夏休み中に出かけたというパターンもありますので、そこで感染されたなど、いろいろなパターンがあります。

今回、このデルタ株と言われますコロナは感染力が非常に強いので、ご家庭で、例えばお一人感染されると、家庭内に急速に感染が広がります。かなり早いスピードで感染が広がっていきますので、まずは外に出て行ったときに感染しないようにということが一番重要だと考えております。

ワクチン接種ですけれども、中学生の方、高校生の方々にワクチンの接種券につきましては、全てお届けをしたところでございますが、それぞれご希望される方には接種が始まっております。ワクチンの接種の効果は、現実にはかなり効果が出ておまして、今日も実は夕方発表になりますが、高知県内では100人を超える方々の感染が発表されます。ただ、その中で、高齢者の方々の感染が非常に減ってきていますので、現実にはワクチンを打たれた年代層は感染が非常に減ってきておりますので、ワクチンの効果はあると考えております。

それぞれ皆様方もSNSを見ていると思いますが、いろいろなデマがありまして、例えば、ワクチンを打ったネズミが2年以内に全部死んだとか、これが一番分かりやすいデマなのですが、もともとネズミの寿命は2年しかないのです、2年以上生きるネズミはいないので、そういう単純なデマが出ていたりしますので、やはり正しい情報を広く知っていただきたいというのが、我々の希望でございます。

それぞれ重症化予防，総合的に言うと，多くの方がワクチンを打ちますと，発生の予防対策にもなりますので，我々としましては，できるかぎりワクチンを打っていただきたいということをお願いしているところでございます。現在，12歳から15歳までの方々，9500人近くいますけれども，このうちの約3割，2841人，3000人弱ですけれども，ワクチンの予約をされております。また接種は，ご家族とご相談されて決めていただければいいと思いますが，ワクチンの効果はありますので，できれば，我々は打っていただいたらということをお勧めいたします。

市内の感染もかなり広がっております。先ほど言ったようにお一人感染で，家庭に持ち帰ると，家庭内感染がすぐにまん延いたしますので，マスクの着用，手指の消毒の徹底，また，混雑したところに行きたくないのである程度行かないようにということをお願い申し上げたいと思います。基本的なことは，徹底していただければと思います。

皆様方といろいろなところで協力をしながら，まん延の防止を我々も徹底してまいりたいと思います。また，どうかよろしくお願いたします。以上です。

浅野朱音 議長：

2番。城北中学校，三谷華楓議員。マイクをオンにして質問してください。

城北中学校 三谷華楓 議員：

城北中学校の三谷華楓です。私たち城北中学校は，津波浸水が想定される場所に，誰が見てもわかるステッカーを表示することを提案させていただきます。

現在，高知市の各地には，「海拔何m」などの表示がされています。しかし，調べてみると「何分後に何mの津波が来ます」などの情報内容が少ないと感じました。外国人や幼い子供たちをはじめ，防災学習をしている私たち中学生にとっても，危機感をあまり持たず，自分が通っている学校や自分の家に何分で津波が来るのか分かっていない人が多いようです。実際に城北中学校の生徒に聞いてみた結果，到達時間や津波の高さを知っている生徒は，聞いた人数に対してわずか2割という少なさでした。

そこで，この問題を解決するために，このようなステッカーを考えました。資料の提示をお願いします。このステッカーのポイントは2つあります。

1つ目は，防災キャラクターの「つなみまん」を，ハザードマップに表示されている危険度レベル別の色で表示することです。これにより，誰が見てもおおまかな危険度を一目で確認することができます。

2つ目は，津波到達時間と津波の高さを示すことです。このような具体的な数字を用いることで，自分が住んでいる地域の災害の大きさを知ることができ，さらにどのくらいの時間で避難しなければいけないのかも分かります。更に，つなみまんは，高知県出身のやなせたかしさんが作られたキャラクターでもあるので，高知県民には親しみがもてると思います。

このステッカーを使うことで，高知全体の防災への意識も高まり，南海トラフ大地震への対策にもなると思います。資料の提示を終わります。

ぜひ，高知市でこのようなステッカーを活用していただけないでしょうか。ご検討よろしくお願いたします。

浅野朱音 議長：

有澤 防災対策部長。

有澤 防災対策部長：

防災キャラクターを用いたステッカーを活用することについてお答えします。

本市では、津波避難の実効性を高めるとともに、津波発生時の被害軽減に繋げるため、電柱に巻き付けた海拔表示の看板や、緊急避難場所とその場所までの距離を表示した避難誘導標識を設置しています。また、社会貢献活動の一環として、民間事業者の方々が、同様の看板を設置いただいているものもあります。

表示内容につきましては、内閣府の「災害種別図記号による避難場所表示の標準化の取組について」や一般社団法人日本標識工業会の「防災標識ガイドブック」、本市の「高知市広告掲載基準」に基づいて作成しております。

これは、離れた場所からでも判別でき、誰が見ても分かるように表示することで、災害が発生した時に少しでも早く避難できるよう、簡潔な内容で必要最低限の標記内容としており、外国人の方にも理解していただけるよう、日本語と英語で表記しております。

ご提案いただきました、防災キャラクター「つなみまん」は、高知県の南海トラフ地震対策の普及啓発活動を目的として、県出身の漫画家やなせたかしさんによって作成されたもので、子供から高齢者まで多くの県民の皆様に親しまれております。

この「つなみまん」は、高知県の規定により、色を変えるなどの改変は認められていませんが、南海トラフ地震啓発活動に使用することは可能と伺っていますので、ご提案いただきました、津波到達時間や津波の高さに具体的な数字を用いることも含めまして、今後標識等を作成していく際の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、実際の地震の際には、地震の発生位置（震源）や規模（マグニチュード）によって、予想される津波到達時間や津波の高さは違ってきますので、想定にとらわれることなく、できるだけ早く、できるだけ高い場所に避難していただくようお願いいたします。以上です。

浅野朱音 議長：

3番。愛宕中学校、大川莉菜議員。マイクをオンにして質問してください。

愛宕中学校 大川莉菜 議員：

こんにちは。愛宕中学校の大川莉菜です。ジェンダー問題についてお伺いします。近年、世の中ではジェンダー平等に向けての様々な取組が行われていると思っております。2004年に、性同一性障害特例法が施行され、家庭裁判所の審判により、戸籍上の性別変更ができるようになったり、2016年には、文部科学省が教職員向け手引きを作成、公表し、学校でのLGBTの子供たちへの支援が徹底されたりしています。

最近では、SDGsの中でも家事、育児、介護を性別に関わらず平等に分担したり、自分の言動に性差別がないか考えたりといったジェンダー問題について取り上げられています。これらの活動は、当事者にとって大きな第一歩になったのではないのでしょうか。

しかし、2021年に世界経済フォーラムが、男女平等がどれだけ実現できているかを数値化したジェンダーギャップ指数では、日本は、調査した156カ国中120位で、現在の日本は世界から見てもジェン

ダー平等に遅れている国とされています。

また、中学校の道徳の授業でも、個性を認める多様性の社会をつくっていかうという学習を行っていますが、中学生はまだ自分たちのことというふうにとらえておらず、心無い一言を耳にすることももあるのが現状です。

そこで、高知市では、ジェンダー問題についてどのような取組が行われているのか知りたいと思いました。また、私たち中学生がジェンダー問題について取り組めることがあればお伺いしたいです。ご回答よろしく申し上げます。

岡崎 市長：

ありがとうございます。それではご質問にお答え申し上げたいと思います。特に21世紀になりまして多様性に関します、いろんな議論が高まってきておりまして、このジェンダーに限らず多様な生き方、多様な家族のありよう、また多様な性の在り方、こういう多様性ということが21世紀の一つの大きなテーマになってきております。特に性の多様性ですが、先ほどご指摘もありましたように性的マイノリティの方々がいわゆる偏見や差別のために日常生活の中でいろんな悩み、また生きづらさなどを抱えて暮らしているという現状をできる限り見直しながら改めていかうという動きが世界的に広がってきております。高知市におきましては、令和元年の12月議会におきまして、前の議場にですけれども、「高知市におけるパートナーシップの宣誓制度創設に関する請願」が採択されまして、令和2年2月には、性的なマイノリティの人々を支援するNPO団体がありますが、1700人を超える署名とともに制度創設に関する要望書が高知市に提出いただいております。

このようなNPOやまた、当事者の方々からのご要望を受けまして高知市では、多様な性の在り方に関する正しい理解、また普及のために、全ての人の性的な指向・性自認に配慮した取組を積極的に推進してきております。その一環の中で、市民の方々にも高知市の一つの方向性を示すために、令和2年11月に、「高知市にじいろのまち宣言」を行いまして、この宣言とセットにして「高知市パートナーシップ登録制度」を創設しております。それぞれいろいろな方々がこのパートナーシップの登録を現在利用している状況にあります。

その他にも高知市では、各ご家庭や働いている職場等におけますジェンダー平等の実現を目指しまして、高知市が設けております委員会の委員に占める女性の割合を増やしたり、また、介護と仕事、子育て、こういうものができるだけ両立しやすいように、先ほども家庭内の家事の話が出ましたが、女性も男性も等しく活躍できる、そういう社会状況を作っていかうということで取り組んできております。

学校現場におきましても、子供さん、生徒さんが一人で悩んでいるケースもありますので、学校におきましては、特別活動の時間の中で、小学校の1年生の時からお互いのそれぞれのよさを見付け、お互いを尊重し合い、仲よくしていくこと、4年生の保健の学習の中で体の変化の個人差、また男性女性の特徴についても学習しているというふう聞いております。

今般開かれております、パラリンピック、また先に閉会いたしました東京オリンピックの基本コンセプトにも「多様性と調和」ということが掲げられております。現在、パラリンピックの中でさまざまな障がいのある方々が活躍をされております。また、それぞれの地域にはいろいろな考え方の方々が生活されておられますので、我々が全体的にいろいろな考え方をお互いに認め合って尊重し合うという共生社会のまちづくりというものを高知市の非常に大きなテーマとしております。共生社会のまちづくりというものをできるだけ地域でも広げていくようにということで市役所の中でも様々な議

論をしておりますので、このジェンダーの多様性を認めていくということを含めてお互いがそれぞれの生活、生き方を尊重し合う、お互いの人の尊厳を大切にする、そういう共生社会を私たちも目指していきたいと思っております。

また、皆様方もこれからの社会をよりよくし、ジェンダー平等社会を実現していく原動力、これは若い方々がその原動力を持っておりますので、また正しく理解をしていただいて、自分の構わない範囲でお互いを尊重すると、そういう社会を構築するために支援をいただければ我々も幸いですので、今後の活躍をご期待をしたいと思います。以上です。

浅野朱音 議長：

4番。城東中学校、西村姫佳議員。マイクをオンにして質問してください。

城東中学校 西村姫佳 議員：

城東中学校の西村姫佳です。学校に導入されたタブレットPCについて質問します。今年度から学校にタブレットPCが導入されました。

導入当初はクラスの40人が同時に接続するとインターネットにつながらない状況が見られましたが、7月上旬に回線工事が行われ、インターネット環境を改善していただきました。

ICT機器や、インターネットの利用は現代社会においては必須です。義務教育から習得すべき技術を身に付け、社会人ではさらに有効活用できる、そんな人材を育てていくべきだと思います。

また、タブレットを活用することで自分で検索して調べたり、データをまとめたりすることで、教科の理解や関心、興味を高めることにつながります。

実際に、タブレットPCで検索して調べたり、情報共有として授業で使用したりすることで、授業に集中して取り組む人が増えてきています。

しかし、まだ始まったばかりなので、先生方も指導に苦勞されているように感じています。高知市で、先生方にタブレットPCを用いた授業や生徒への端末使用の指導方法についての研修などを実施していただけたらと考えています。

今後、先生方にこのような研修を実施される予定はあるか、実施予定があればお聞きしたいです。よろしくをお願いします。

浅野朱音 議長：

山本教育長。

山本 教育長：

タブレットPCを用いた教員を対象とする研修についてお答えをいたします。

城東中学校の皆様が、積極的・意欲的にタブレットPCを利用していることは、とてもうれしく感じております。

生徒の皆様の「タブレットPC等のICT機器の操作スキル」や「ICT機器を利用して情報を有効かつ適切に活用する力」を身に付けたい、また教科の学力を伸ばしたいという思いに教員や教育委員会も応えていかなければならないというふうに思っております。

このような皆様の思いに応えるためには、タブレットPCや電子黒板等の新しい学びのツールを効

果的に取り入れた新しいスタイルの授業への変革が必要であると考えており、そのために教育委員会では、教員を対象とする研修にICT活用研修を加え、実施をいたしております。

今年度は、教育委員会主催のタブレットPCや電子黒板等のICT機器を活用した研修会を年間11回計画し、実施しております。また、この夏休み中にも学校等での研修会が25回以上計画され、実施されているところでございます。

これらの研修会では、初歩的なタブレットPCの操作に関する内容や直接、授業につながる授業支援アプリの活用方法に関する内容など、教員の習熟度に応じた研修メニューを用意し、高知市内の教員に広く参加を案内しております。

また、現在の新型コロナウイルス感染拡大を受けまして、8月19日に臨時校長会を開催し2学期が始まって以降、校内で感染が広がり学級閉鎖や休校措置が必要となった場合でも直ちに対応できるよう、全ての教員がこの志議会でも利用しておりますGoogle Meetを使ったりリモート授業を体験しておくよう指示したところであり、城東中学校においても、今月27日にランチルームにおいて研修会が行われると聞いております。

この他にも自主的にICT活用推進研修等に参加し、試行錯誤をしながらも生徒の皆様とより分かりやすく豊かな授業を作っていくと取り組んでいる教員は少なくありません。2学期からも皆様が今以上にICT機器を有効に活用し、積極的に授業へ臨めるよう教育委員会も学校を支援してまいります。

浅野朱音 議長：

5番。潮江中学校、川田野々花議員。マイクをオンにして質問してください。

潮江中学校 川田野々花 議員：

潮江中学校の川田野々花です。防災備蓄品の食物アレルギー表示等についてお伺いします。

潮江中学校には、食物アレルギーがあって給食で除去食を食べている人や、代替食を家から持ってきている生徒が何人かいます。生徒会執行部のメンバーの中にも食物アレルギーがあって不自由をしている人がいます。

また、潮江中学校は南海トラフ地震が起きたとき、地盤沈下をした上に、2メートルから3メートルの津波が押し寄せ、さらにいつまでも、水が引かないことが予想されます。確実に来るとわかっている南海トラフ地震ですが、いつ、どこで起こるかはわかりません。

学校に置いている自分の避難袋の中にはアレルギーを含まない非常食を入れていますが、被災後、1日ぐらいしか持ちません。学校にある生徒用非常食には「アレルギー27品目不使用」となっていますが、他の避難所がどうなっているのかわかりません。また、27品目以外にも反応するアレルギーを持つ人もいます。避難所での生活を送らざるを得ない状況下で、食料の確保は誰もが心配することですが、アレルギーを持つ人にとっては、命に関わる懸案事項です。

そこで高知市にお尋ねします。高知市が確保している備蓄品の中にアレルギー対応の非常食がどのくらいあって、アレルギーのある人など、必要な人にどのように届くようになっているのか、教えてください。よろしくお願いします。

浅野朱音 議長：

有澤 防災対策部長。

有澤 防災対策部長：

防災備蓄品の食品アレルギー表示等に関する質問にお答えいたします。

南海トラフ地震のような大規模災害が発生したときには、国からの支援物資が届き始めるのは、災害発生から4日目以降となっておりますので、3日目までは市民の皆様の個人備蓄、地域内事業者の流通備蓄、県や市の公的備蓄で対応することになります。大規模災害時の備蓄については、各ご家庭での備蓄、いわゆる「自助」の取組を基本としておりまして、最低でも3日分、できれば1週間分の備蓄を市民の皆様をお願いしているところです。

高知市では、南海トラフ地震に備え、高知市備蓄計画を策定しており、自宅が被災し家庭での備蓄品を活用できない場合などの、「自助の取組を補うもの」として、アルファ化米等の食料品、毛布や簡易トイレ等の生活必需品を中心に、市内の想定される避難者数の1日分を公的備蓄として、計画的に購入しております。

公的備蓄のうち、食料品としましては、アルファ化米、乳幼児用ミルクがございます。アルファ化米につきましては、小麦、大豆といったアレルギー特定原材料等27品目を含まないものとしておりますが、乳幼児用ミルクにつきましては、アレルギーの種類が多く、対応したものを備えることができておりません。本来でありましたら、質問議員さんが言われるような27品目以外についても対応することが望ましいと考えておりますが、多岐にわたるアレルギーに対応する備蓄品を各避難所で確保することは、現実的に困難であることから、代表的なアレルギーに対応した商品としております。

このことから、個々の事情に合った食料品等が必要な方は特に、いざという時にいつでも持ち出せる最低3日分の備蓄品をご準備していただくようお願いいたします。

浅野朱音 議長：

6番。朝倉中学校、宮地夏凜議員。マイクをオンにして質問してください。

朝倉中学校 宮地夏凜議員：

朝倉中学校の宮地夏凜です。市内中学校のヘルメット着用に係る啓発活動の取組と、普及率についてお伺いします。

資料1の提示をお願いします。現在、私たちの学校では多くの生徒が自転車で通学しています。朝倉中学校は坂の上の小高い場所にあり、通学路も細く、車から見えづらい道、すれ違うのが難しい道も少なくありません。奥に見えるのが校舎です。朝倉中は七叉路の分岐から細い坂道を登っていきます。山に沿ったカーブも多く道幅が狭いため、車との対向の際は静止して待つこともあります。

資料2をお願いします。これは下校の様子です。写真からわかるとおり、本校では、ヘルメットを着用する生徒が少ないです。車とすれ違うときも、道幅が狭いため、事故を起こさないように気をつけています。しかし、毎年軽重を問わず、車との接触事故を起こしているのが現状です。資料の提示を終わります。

しかし、その中で通学時にヘルメットを着用している人はほんの一部です。その要因として、持ち運びの不便さや、補助金制度はあるものの、ヘルメット購入にお金がかかること、学校全体で見たと

きに着用している人の少なさが挙げられます。

私たち朝倉中学校生徒会は、ヘルメット着用が普及することで、交通事故の際のけがのリスクを下げるだけでなく、きたる南海トラフ地震の際にも防災ヘルメットの代用として被ることができ、身を守るのに役立つのではないかと考えています。

そこで、ヘルメット着用の普及のために各学校でどのような取組を行っているか、各学校の普及率はどれくらいかを知ることで、それを「生徒会だより」で発信し、その必要性を訴えたいと思います。

ぜひ、各学校の取組みと、ヘルメット着用率の高い学校ではどれだけの着用率となっているのかを教えてください。よろしくお願いします。

浅野朱音 議長：

山本 教育長。

山本 教育長：

ヘルメット着用の推進に関するご質問をいただきました。教育委員会では、ヘルメット着用の推進に向け、保護者の代表者やそれぞれの地域において交通安全の推進に取り組む団体の代表者、警察や学校関係者等で構成されます「登下校時におけるヘルメット着用の推進に関わる協議会」を開催し、関係団体が情報を共有、連携を図ることで各団体が一丸となって、ヘルメット着用の推進に取り組んでいるところでございます。

その協議会の中では、生徒の自発的な取組により、着用率の向上を目指すことが望ましいとの考え方が示されておりまして、ヘルメットの着用を含め、交通ルールの遵守や自転車乗車時のマナーの向上について、生徒自らがその必要性を実感し、行動に移せることが何より重要であると考えております。

各学校におけるヘルメット着用の推進に向けた取組につきましては、まず、部活動を活用した啓発を行っている青柳中学校やその青柳中学校の取組を参考に、部活動での遠征等の際のヘルメット着用について、生徒会から呼びかける取組を始めようとしている横浜中学校がでございます。両校では、1割から2割程度の生徒が、すでにヘルメットを着用して自転車を利用しており、部活動の生徒から着用が広がっていると伺っております。

次に、保護者からの意見を参考に、自転車通学を許可する際にヘルメット着用を条件としている三里中学校や、通学方法の見直しによって三里中学校と同じようにヘルメット着用を許可条件に入れ、今年度より自転車通学を認めた大津中学校があり、両校では自転車通学をする全生徒がヘルメットを着用しております。

私立中学校におきましても、土佐塾中学校や土佐中学校では、自転車通学をしている生徒の2割から3割程度の生徒がヘルメットを着用して通学していると聞いておりまして、2校とも学校からヘルメット着用の推奨や情報の発信をすることによって、生徒と保護者が話し合い、ヘルメットを着用する生徒が増加したと伺っております。

ヘルメット着用の推進には、生徒自身がヘルメットの重要性や必要性を認識することが欠かせません。そのために、教育委員会といたしましては、学校の取組を支援することはもちろん、家庭や地域との連携を図りながら、何よりも大切な命を守るためのヘルメット着用の推進に向け、今後も継続して取組を進めてまいります。

【7番の一宮中学校は後半へ順番を入替】

浅野朱音 議長：

8番。三里中学校，尾崎里奈議員。マイクをオンにして質問してください。

三里中学校 尾崎里奈議員：

三里中学校の尾崎里奈です。災害時の避難経路と避難場所の整備について要望します。

私たちの通っている三里中学校の周辺地域は、海に隣接しています。南海トラフ地震では、津波の発生が予想されています。津波が来た場合には、三里中学校の生徒は、校舎の屋上に避難し、地域の方々は近くの大平山に避難することになっています。

本校では、津波が来た場合を想定して、年に3回、避難訓練を実施しています。それに加えて、地域の危険な場所を調べたり、ボードゲームを通して、避難時に役立つ知識を身に付けたりするなど、南海トラフ地震に備えて、準備をしています。

しかし、地域の方々が避難する大平山は、避難所としての整備があまりされておらず、高齢の方や小さい子供が避難をするには、大変時間がかかるため、逃げ遅れてしまう可能性が十分に考えられます。

資料の提示をお願いします。実際に大平山に登ってみると、避難経路には手すりがなく、道の傾斜が急で、道幅も狭いところが多く、たくさんの方が避難するのは難しいと考えました。また、避難ができたとしても、安全に避難生活を送るには難しいと考えます。三里中学校の周辺には、保育所や幼稚園もあり、高齢の方も多く住んでいます。資料の提示を終わります。

南海トラフ地震が起き、津波が来たとしても、私たちの地域の方々が安全に避難をし、安全を確保することができるよう、避難経路と避難場所の整備をしてほしいと思うのですが、高知市の考えをお聞かせください。ご回答よろしくをお願いします。

浅野朱音 議長：

有澤 防災対策部長。

有澤 防災対策部長：

避難経路と避難場所の整備についてお答えいたします。

本市では、津波浸水被害が想定される地区において、地域の皆さんとワークショップや現地確認などを行いながら、地区別の津波避難計画を作成しており、その中で避難経路の検討や避難場所の選定を行っています。三里小学校区では、津波からの避難につきましては、まずは大平山のように自然地形の高台へ続く避難路への避難を優先し、近くに自然地形の高台がない場合は、三里中学校や三里小学校などの津波避難ビルや津波避難タワーへの避難を呼びかけています。

避難路につきましては、土地所有者の了承のもと、1.5m以上の道幅の確保や、勾配が15度以上の箇所には階段を整備するなどの基準のもと、整備を行っており、三里小学校区では12箇所の避難路を確保しています。

大平山の避難路につきましても、土地所有者の方にご了承いただきまして、階段や手すり等の整備を行っておりますが、自然地形を利用しているため、一部には、小さな子供やお年寄り、体が不自由

な方など、配慮の必要な方が避難しづらい箇所もございます。

避難路や避難場所につきましては、地域の自主防災組織を中心とした避難訓練を定期的を実施し、検証を行っていますが、避難路は自然地形を活用しているため、整備には多くの費用や、土地所有者の方々のご了承を得ることも必要となりますので、地域の皆さんと十分協議しながら、実現可能な整備について検討を進めてまいります。

三里中学校の皆さんの、南海トラフ地震に対する取組は大変重要なものであり、ぜひ、今後も継続していただきながら、地域が実施する防災活動にも積極的に参加をしていただき、地域防災力の向上への取組を推進していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

浅野朱音 議長：

9番。南海中学校，柿本准星議員。マイクをオンにして質問してください。

【オンライン状況の不具合のため9番と10番の質問順番を入替】

浅野朱音 議長：

10番。西部中学校，橋本吉功議員。マイクをオンにして質問してください。

西部中学校 橋本吉功議員：

西部中学校の橋本吉功です。私は、ICTを活用した授業について質問させていただきます。

今年度から全員にタブレットPCが配られ、いろいろな授業で活用しています。例えば、2年生の国語の授業では、コロナ禍でも安心・安全に行える修学旅行を提案するために、一人一人がタブレットPCを用いて活動内容やコロナ対策について調べ学習を行い、パワーポイントを活用してグループで発表しました。タブレットPCを用いることで、授業への興味が高まり、より集中して取り組むことができました。また、プレゼンテーションの活動を通して、相手に、より伝えやすくするためにはどのように表現すればよいかも考えることができました。

新型コロナウイルス感染症の関係で昨年度は臨時休業になることもあり、県外で行われているリモート授業なども注目されました。

西部中学校では、リモート授業はできませんでしたが、昨年度、学校のホームページに「SeiTube」として理科の実験を動画で載せていました。西部中学校の先生方が、実験している様子を見ながら楽しく学ぶことができました。このような環境が増えれば、家でも楽しく学習することができると思います。

生徒全員が家に機器があるとは限りませんが、もし、学校が臨時休業になっても家で学習できる手立てがあると、とても心強いと思います、これから何か手立てがあるようでしたら教えていただきたいです。

浅野朱音 議長：

山本教育長。

山本 教育長：

学校が臨時休業になった場合のタブレットPCの活用についてお答えします。

西部中学校では、生徒の皆様がそれぞれタブレットPCを活用して大いに学習に役立てているという様子を伺い、大変良いことだと感心いたしました。

さて、新型コロナウイルス感染症は、ワクチン接種が急ぎ行われているところですが、未だ収束の見通しが立たない状況が続いています。皆さんの元にも7月末に接種券が届いていると思います。ワクチン接種は義務ではありませんが、現在本市では感染の中心になっているといわれる変異型のデルタ株はこれまでのウイルスとは異なり10歳代の感染が数多く報告されており、是非、接種券に同封されているワクチンのパンフレットをご家族でご覧いただき、接種について話合いをしていただきたいと思います。と思っております。

令和2年3月から5月にかけて続いた学校の臨時休業は、生徒の皆様にも大きな不安を与えることとなりました。このような中においても、先生たちが動画を配信するなど、学びを止めない努力をしたことは、生徒の皆様にとって、大変有意義なことであったというふうに思います。

今後、もし学校が以前のように臨時休業となったら、どのようになるのだろうかという心配は、もつともなことだと思います。教育委員会でも、生徒の皆様がご自宅でも学習することができれば、その不安は大いに軽減できるものと考えております。教育委員会では、タブレットを家に持ち帰ることができるよう貸与規定の整備を行うとともに、先ほど城東中学校の西村議員の答弁でもお答えいたしましたが、全ての教員が夏休み中にリモート授業を体験し、仮に休校が必要となった場合でも、直ちに対応できるよう準備を進めております。

今回、整備をいたしましたタブレットPCは、Wi-Fi環境が必須となっており、インターネットに接続することでアプリの動作を含めて使用する事ができます。しかしながら、ご指摘のとおり、生徒全員のご自宅にWi-Fiやインターネット環境があるとは限りません。

高知市教育委員会では、そのような状況も考え、学校が臨時休業になった場合においても、誰一人取り残すことなく、学びの継続ができるようにするにはどうすべきかを検討しており、今年度実施した「家庭のインターネット接続環境調査」により家庭内にインターネット接続環境のない家庭に対して、臨時休校の際に貸出できるよう9月当初には80台程度の無線ルーターを確保するよう準備を行っております。

また、これまで国の無料制度を活用し利用していた「デジタルドリル」を2学期からは全小・中・義務教育学校で利用できるよう契約を結びましたので、家庭において既習授業の振り返りなどに活用できる環境を整備いたしました。

このように、仮に休校措置が必要となった場合でも学びを止めることなく学力の保障ができるよう、Google Meetを利用したリモート授業やデジタルドリルなどのICTを活用した家庭学習に向けて準備を進めてまいります。

浅野朱音 議長：

9番。南海中学校、柿本准星議員。マイクをオンにして質問してください。

南海中学校 柿本准星議員：

南海中学校の柿本准星です。私は命の大切さを後世に伝えるDVDを共に作っていただくことを要望します。

皆さんは昔、このような事故があったことを知っていますか。今から66年前、1955年5月11日、修

学旅行中の南海中学校生徒117名を乗せた連絡船「紫雲丸」に、貨物船が衝突、わずか4分後に紫雲丸は沈没しました。この事故により、南海中の生徒28名を含む168名の尊い命が失われました。

その後、1955年7月には、28名の「遭難記念碑」が南海中正門横に作られました。毎年5月11日には、全校生徒による追悼式が行われています。また、修学旅行の事前学習のスタートとして、当時紫雲丸に乗船し、遭難された武島末美さんと、九州で同級生の事故を知った山本元子さんを学校にお招きし、実際の事故の様子をお話していただきました。

しかし、遭難事故から66年が経ち、二人ともご高齢になり、いつまでもこの貴重なお話を聴けるかどうか不安を感じています。そこで南海中では生徒から質問を募り、代表お二人にインタビューし、その様子をビデオに残そうとしました。ところが、新型コロナウイルス感染防止のため、生徒はインタビューに行く事ができませんでした。かわりに先生方が雪蹊寺にてお二人がお話をされている様子をビデオにとってくださいました。

そこでお願いします。このデータや今までのニュースや記事をまとめていただき、命の大切さを伝えるDVDを作ってくださいませんか。南海中の人権学習で活用することはもちろんのこと、いろいろな学校で命の尊さを知る生きた教材となり、後世に残していく貴重な資料になります。南海中には他県の先生方も来られて教科書無償や紫雲丸遭難事故について学習されることも多いと先生方から聞いていますので、高知だけでなく他県でも活用できる資料になると思います。よろしく願います。

浅野朱音 議長：

山本 教育長。

山本 教育長：

楽しい思い出をつくるはずだった修学旅行から、二度と家族のもとに戻ることができなかった悔しさ、66年という月日が流れても決して癒えることのない残された家族の悲しみなど、南海中学校生徒28名を含む、100名もの小・中学生の未来が奪われた紫雲丸遭難事故は、高知市にとって決して忘れてはならない事故でございます。

この事故以来、南海中学校において、毎年の慰霊祭や追悼資料室の整備をはじめ、修学旅行前に必ず事前学習として、紫雲丸遭難事故について学び、自分自身の生き方を振り返ったり、命の尊さについて深く考えたりと、事故の教訓を風化させない継続した取組がなされてまいりました。

今回、生徒会が中心となって「命の尊さを後世に伝えたい」と紫雲丸遭難事故の関係者への聞き取りなど、貴重な当事者の証言を未来へのメッセージとして視聴覚教材に残そうという発想や取組は、大変素晴らしいことだと思います。

生徒会の皆さんのこの発想や取組は、紫雲丸遭難事故で犠牲となった生徒さんの在りし日の思い出や、生還できた同級生の語りなどから、命の大切さや基本的人権を尊重することの意義を理解するための貴重な資料となるものであり、命を守るための教材として広く学校で活用できるものと考えます。

視聴覚教材の作成につきましては、是非、企画から構成、編集など生徒会の皆さんの主体的な取組により、教材を完成させていただきたいと思っております。教育委員会といたしましては、制作過程における構成や脚本、編集、著作権などの助言、そして取材に要する資金面での支援をさせていただきたいと考えております。また、作成した教材や今回のGIGAスクール構想で整備したGoogleドライブに保

存する事で、南海中学校のみならず、すべての高知市立学校において視聴可能となりますので、是非、そういう形で保存をしていただきたいと思います。

皆さんの熱意と努力により、紫雲丸事故を後世に伝えることのできる素晴らしい作品が完成することを楽しみにしております。

浅野朱音 議長：

11番。青柳中学校，中山遥議員。マイクをオンにして質問してください。

青柳中学校 中山遥議員：

青柳中学校の中山遥です。僕は、近くに避難場所がない場合の避難場所の整備について質問します。

青柳中学校のある、高須・五台山地区は海拔が0mであり、南海トラフ地震が起こった際にはほとんどが浸水することが予想されています。高須地区には、津波避難ビルが59か所あるのに対して、五台山地区は青柳中学校も含めても3か所しかありません。避難ビル以外の避難場所は五台山しかなく、地震によって山崩れが起きた場合、どこに避難したらよいかと疑問に思いました。また、高齢の方にとって、避難場所のほとんどが山というのは身体にも負担がかかるのではないかと思いました。

南海トラフ地震が発生したら、すぐに高い場所に避難しないとあっという間に津波が来て、たくさんの方が危険にさらされてしまいます。そうすると多くの命が犠牲になってしまうかもしれないのです。そうなる前に、今から安全な避難場所を整備してもらいたいと考え質問することにしました。また、五台山地区だけでなく、他の地区にも同じようなところがあれば安全に避難できる場所を整備してほしいと思います。

最後に、私たちでも何か力になれることや協力できることもあれば教えてください。どうぞよろしくをお願いします。

浅野朱音 議長：

中澤副市長。

中澤 副市長：

近くに避難場所がない場合の安全に避難できる場所の確保についてお答えします。

地域の皆さんと一緒に作成した五台山小学校区の津波避難計画では、津波から命を守るための避難行動として、第一に津波浸水想定区域外への避難、次に自然地形の高台への避難、そして三番目に、一定期間滞在が可能な避難所を兼ねた指定津波避難ビルへの避難、そして四番目に緊急対応としての指定津波避難ビルへの避難を、避難行動の基本方針としています。

五台山地区では、地震発生から最も早いところでは30分程度で津波が到達すると予想されていますので、地域住民の皆さん全員がそれまでに津波浸水想定区域外まで避難することは難しいと思われることから、五台山や大畑山などの自然地形の高台や、津波避難ビルにしている青柳中学校や五台山小学校、リバーサイドハイツへの避難をしていただくことを想定しています。

ご質問いただきましたとおり、五台山などの自然地形の高台につきましては大きな地震による山崩れの可能性もあることから、山に上がる避難路が使用できなくなることも考えられます。

そのため、自然地形の高台へ避難できない場合は、近くの津波避難ビルもしくは少しでも高い建物

へ避難をすることを呼びかけており、場合によっては、五台山の南側では五台山道路の高架道路へ上がるスロープを使って避難すること等も考えられます。

高知市としましては、五台山小学校区内には津波避難ビルに指定できる高い建物が他の地域と比べて少ないことから、今後も、できるだけ、自然地形の高台への早期避難が行えるよう、地域の自主防災組織の皆さんと連携しまして、避難訓練等を実施していくとともに、避難路や避難場所の安全性確保のための必要な整備についても協議をしております。

青柳中学校の皆さんには、日頃から地域の皆さんと交流を深め、地域が実施する避難訓練等に参加していただき、高齢者や障害者の方々など、避難時に支援が必要な方の支援について、皆さんの視点から気づいたことなどのご意見をいただきたいと思います。と考えております。

高知市としましては、そうした皆さんからのご意見を今後の避難対策の参考にしてまいります。以上でございます。

浅野朱音 議長：

この際、15分間休憩いたします。14時25分より会議を再開いたします。

【 休 憩 】

小松もこ 副議長：

それでは、休憩前に引き続き、会議を開きます。議長を交替しました。ここからは、愛宕中学校、小松もこ が議事を進行します。よろしくお願いいたします。

小松もこ 副議長：

12番。高知商業高等学校、頼美樹議員。マイクをオンにして質問してください。

高知商業高等学校 頼美樹 議員：

高知商業高校の頼美樹です。本日は、このような場を設けていただきありがとうございます。皆さんは「アップサイクル」という取り組みをご存じですか。

アップサイクルとは、使わなくなったもの、廃棄するものに、新しいアイデアや素材などをプラスすることで、付加価値をつけ新たな商品へと生まれ変わらせることです。このアップサイクルが、SDGsの実現につながると自治体や企業の間で注目されています。

そして現在私たちは、土佐市にある三昭紙業様・南国市にある南国にしがわ農園様から「製品の加工過程ででた端材を生かして、新たな商品を生み出せないか」というご相談をいただき、企業様とともに商品開発に取り組んでいます。

私はこれらの経験から、高知市でも、使わなくなったものを利用し、アップサイクルを取り入れた取組ができるのではないかと考えました。

まず、高知商業高校に通っている3年生に「あなたが考える高知の魅力は何ですか。」というアンケートを行ったところ、全体の74%が「高知の魅力は自然がたくさんあるところ」と回答しました。

そこで私は、自然豊かな高知の木材を活用したアップサイクルを行い、商品を生み出すことで、高知の新たな魅力の発見につなげることができると考えました。

つぎに、高知市鏡地域振興課の方に高知の林業の現状についてのお話を聞かせていただきました。その中で、高知市内の製材工場で消費されている原木は、主に建築用材などの製品に加工されるとと

もに、加工の過程で発生する端材についても紙パルプの原料などに利用され全体の約97%を活用していますが、一方で約3%が使用できない廃材として処分されていることを知りました。

また、高知県木材協会様が取り組む「高知の森から生まれた木のプロジェクト」についても教えていただきました。「高知の森から生まれた木のプロジェクト」とは、高知の木材を活用して、家具や子供の玩具などを生産している企業の商品を掲載している本のことです。

これらの経験から、私自身が考えたことがあります。それは、「高知商業生と高知市が連携し、高知の木材を生かしたアップサイクルの仕組みを構築できないか」ということです。このように考えたのは、日本一の森林率を誇る高知県産の木材の魅力を高知県内外の多くの人に知ってもらい、手に取ってもらいたいと感じたからです。

出来上がった商品を高知商業生がはりまやストリートフェスティバルをはじめとした各種イベントで販売し、得た利益で、高知市内の幼稚園や保育園、またラオスの幼稚園に贈呈することで、高知県の木材が地域と世界の子供たちの教育に役立つと考えました。

もしこの取り組みが実現できれば、SDGs「4番目の質の高い教育をみんなに」のみならず、「11番目の住み続けられるまちづくりを」「12番目のつくる責任 つかう責任」の実現にもつながると考えます。

改めて、この取組を高知市と連携して行うことはできないでしょうか。

高知の産業の更なる発展と未来の世界と高知を担う子供たちの教育に役立つ取り組みのために、どうぞよろしくお願いいたします。

小松もこ 副議長：

島津農林水産部長。

島津 農林水産部長：

高知の木材を生かしたアップサイクルの仕組みを構築できないかのお尋ねがございました。

森林から生産される木材は、二酸化炭素を吸収し酸素を放出することで、炭素を蓄え成長しています。この木材を木製品や住宅として使用することは、二酸化炭素を放出することなく、地球温暖化の防止につながるなど、SDGsに掲げました目標の達成に必要な取り組みとなります。

更に、ご提案のありました製材工場で廃棄される木材を活用した「アップサイクル」の取組は、地球温暖化の防止のみならず、新たな木製品を生み出すことで木材の付加価値を高めるとともに、これらを販売した利益によって木製品を保育園等に寄付することで、木製品への触れ合いを通じて、子供たちの自然環境等に対する意識の醸成に大変意義深いものであると考えております。

一方で、製材工場で消費されている木材は、そのほとんどが利用されている現状ではありますが、そのなかでも製材品となるまでに至らない細い材や加工の際に発生する樹皮等を無駄なく利用することができないか、またそれらの木材から新たな木製品を生み出すことが可能であるかを判断する必要があります。

高知市では、ご提案の内容の事業化につきまして、商品化が可能か、高知商業の皆さんのアイデアを活かすことができるのかを、ともに考えさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

小松もこ 副議長：

13番。介良中学校, 中川陽菜議員。マイクをオンにして質問してください。

介良中学校 中川陽菜 議員：

介良中学校の中川陽菜です。授業などで高知市の他の中学校と交流する機会についてお伺いします。

このコロナ禍、私たちの生活に、具体的にどのような影響があるのかを考えてみました。中学校での生活や、地域の方々との交流という点に視点をおくと、コロナウイルス感染防止のため、以前より人と「話す」機会が少なくなっているように感じます。話す機会が少なくなることで、現在、敬語が上手に話せない人、コミュニケーション能力が低下する人、人見知りをする人が増加しているのではないかと考えました。

高知市でより良い社会を作っていくためにもコミュニケーション能力というものは、とても大切だと思います。また、コミュニケーション能力を高めることで、将来、高知市を活性化させる力を養うことができるのではないのでしょうか。

以前、全国でタブレットPCが学校に整備され、高知市でもその動きが進んでいると聞きました。学校に整備していただいたタブレットPCを用いて、市内の中学校同士で交流してみたいかでしょうか。

活動する利点として、先ほどお話した、見ず知らずの人とのコミュニケーション能力を高めることや、他校の行事や活動を見聞きすることで、学校行事や勉強に対する関心をより引き起こすこと、コロナウイルス感染症が収束していない場合でも、将来のリモートワークに順応できることなどが挙げられます。

中学生同士のリモート交流について、ご意見のほどよろしくお願いたします。

小松もこ 副議長：

山本教育長。

山本 教育長：

新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの生活様式が大きく変化し、感染予防のため3密とならないよう活動が制限され、直接、人と関わり話す機会はずいぶん少なくなったと思います。そういう中でも、皆さんが成長し、より良い社会を作っていくためには、コミュニケーション能力を育成することは大変重要なことであると考えております。

さて、高知市立学校では、昨年度末までに小学校4年生から中学校3年生までの全ての児童生徒に1人1台タブレット端末を整備いたしました。そして、今年の6月末までには、小学1年生から小学3年生までに1人1台のタブレット端末の整備を行いました。また、この夏休み中には、各学校のインターネット回線を順次、高速なものに切り替えているところでございます。

これにより、今回の志議会のようにGoogle Meetを活用すれば、2学期からは各学校において、1人1台のタブレット端末を利用してリモート会議など、より円滑に行うことができるようになります。

今回の志議会において、みなさんも利用しているとは思いますが、リモート会議を行うためのカメラやマイクはタブレット端末に内蔵されていますし、そのためのソフトウェアも搭載をされています。また、各学校に専用のウェブカメラとマイク・スピーカシステムの整備も行っていますので、リモー

ト会議ができる環境は整っております。

これらを活用し、すでにタブレットを利用しまして生徒会総会をリモートで行った学校の報告も受けております。

教育委員会では、整備したタブレット端末やインターネット回線などICT環境の積極的な活用を推進しておりますので、校内はもちろん、他校とのリモート会議など、中学生同士のコミュニケーションの場として有意義な活用ができるよう、学校の先生とも相談の上、是非、その方法を検討してみてください。

活用に関して判らない事柄や、利用形態により、不足している機材などがありましたら、学校の先生を通じて教育委員会にも御相談ください。教育委員会では、できる限り実現の後押しをしていきたいと考えております。皆さんのユニークな発想による様々な活用を期待しております。

小松もこ 副議長：

14番。大津中学校，黒岩允泰議員。マイクをオンにして質問してください。

大津中学校 黒岩允泰 議員：

大津中学校，黒岩允泰です。高知市における紫外線危険度の周知について要望します。

近年オゾン層の破壊により紫外線量は年々増加しており，その量はオゾンホール発生前と比較すると格段に増え，皮膚がんになったり免疫力が低下したりするなど，人間の健康を脅かすほどになっています。

しかし，今どれほどの量の紫外線が降り注いでいて，それらを浴びることがどれほど危険なのか，どのような病気のリスクが高まり，それらがどのような支障をきたすのかということ，多くの人があまり理解していないように感じます。

また，紫外線対策に対して「紫外線対策は女性のみがするものだ」「サングラス＝かっこつけ」という考えをもっている人も多いのではないかと思います。

これらのことから，紫外線の危険性と対策方法について，理解を深めてもらうためのパンフレットの作成，イベントなどを通して，広く周知していただくことを希望します。よろしく申し上げます。

小松もこ 副議長：

大野健康福祉部長。

大野 健康福祉部長：

はい。紫外線の危険性とその対策の周知について黒岩議員さんにお答えいたします。

環境省が発行している「紫外線環境保健マニュアル2020」では，国内の紫外線量は1990年以降長期的な増加傾向がみられるとされております。

ご質問のように紫外線によります体への影響としましては，日焼けや紫外線角膜炎といった急性的な影響と皮膚がんや白内障等の慢性的な影響が指摘されているところでございます。こうした紫外線は健康への悪影響があるといった一方で，人間の体の中では，紫外線を使ってカルシウムの吸収を増加させる働きをしますビタミンDが作られるなど，健康に非常に役立つ面もございます。

こうしたことから，正しい知識を持って，紫外線を浴びすぎないように，紫外線の強い時間帯の外出はできるだけ避けるとか，上着を着るとか，サングラスをかける，また日焼け止めを上手に使うな

ど、状況に応じた対策を行うことが大切になると思います。

高知市の保健所としましても、高知市のホームページから関連情報にリンクを設定しまして、紫外線に関する情報を市民の皆さんに提供するといったことに加えまして、紫外線が強くなります4月～9月の時期には、いろんなイベント、また講座などで、熱中症予防の啓発を行う機会に合わせまして、紫外線に関する正しい知識や適切な対策を周知するといったことに努めてまいります。

小松もこ 副議長：

15番。旭中学校、山田陽菜議員。マイクをオンにして質問してください。

旭中学校 山田陽菜 議員：

旭中学校の山田陽菜です。学校の教育に協力してくれる企業一覧についてお願いがあります。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの学校行事が縮小、中止されてきました。私たちの旭中学校では毎年、2年生で、自分の希望する事業所に交渉して仕事を体験させてもらう「職場体験学習」が行われてきました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、昨年度は中止されたため、私たちは職場体験に行くことができませんでした。

実際に仕事をしている方から学ぶことができるということは、私たち中学生の視点から考えてみると、経済に興味を持ったり、自分たちのこれからの進路について考えていく手助けになったりすると思います。

そこで、職場体験学習のように将来について一つの学習だけではなく、普段の学校内の授業でも進路や働くことについて気になったことを深く考えていける機会を多くするべきだと考えます。そのために、高知市や他の地域の企業に協力をお願いして、学校の学習に協力してくれる企業一覧をつくらせていただくことはできないでしょうか。この一覧があることで、普段の学習の時など、よりスムーズに地域や社会とのつながりをもつことができると思います。ぜひご検討をよろしくお願いたします。

小松もこ 副議長：

楠本商工観光部長。

楠本 商工観光部長：

現在中学3年生の皆さんが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、これまで行われていた職場体験学習が中止を余儀なくされたことは誠に残念です。しかし、そのような中でも実際に働いている方からの学びを何らかの形で継続できないかとお考えになり、こうしたご質問をいただいたことは大変うれしく、また心強く思います。

中学校や高等学校で学ばれている皆さんには、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現し、将来への希望を持って進路の選択ができるようにするために、職場体験学習をはじめとするキャリア教育が重要であると考えます。

このキャリア教育の推進にあたっては、地域や事業者の皆様の協力が必要です。生徒の皆さんにとっては、地域で働く大人から直接話を聞くことにより、働くことの厳しさや楽しさ、やりがいを知り、実社会に触れる絶好の機会となり、将来、社会的・職業的に自立していくための基盤の形成が促されることとなります。

また、事業者の皆様にとっても、高知の子供たちがこれからの社会でたくましく生きていくために、しっかりとした自分の考えや強い志を持ち、困難を乗り越え社会を切り拓いていく力を育成する一翼を担うことで、「家庭・地域・学校との関係構築」や「社会貢献としての認知度の向上」、「将来に向けての人材確保」など、様々なメリットがあります。

高知市内にもキャリア教育に関心のある事業者は、少なからずいらっしゃいますが、様々な分野や事業形態があり、ご協力いただける内容についてもその時々で変化することが考えられますことから、学校での学習にあたって事業者の協力が必要となった際には、学習の内容などを踏まえ、先生方と情報共有しながら事業者とのマッチングを図る等、随時支援していきたいと考えております。

先程も申し上げましたとおり、中学校や高等学校でのキャリア教育の充実は、生徒の皆さんがこれからの人生における生きる力を育む上で、とても重要な役割を持っております。今後も高知市のキャリア教育の充実のために、引き続き教育委員会や、各学校との連携を深め、よりよい学びを提供してまいりたいと考えています。

小松もこ 副議長：

16番。鏡中学校、中川結月議員。マイクをオンにして質問してください。

鏡中学校 中川結月 議員：

鏡中学校の中川結月です。今年から私たち鏡中学校でも、「GIGA スクール構想」のもと、様々な授業でタブレットPCを使用する機会が多くなり、授業が今まで以上に興味のある内容になりました。それができるのも、学校にWi-Fi環境が整備されたり、一人一台のタブレットPCが配付されたりしたことによる恩恵と感じています。実際に使用してみると、今まで以上に簡単に調べ学習ができたり、ジャムボードというアプリケーションを利用して、友達と考えを述べ合ったり、YouTubeに触れることができたりと楽しさが広がりました。

しかし、現在は学校でしか使用できません。このような環境が「鏡地区」に住む全員の家にあったらどんなに素敵だろうと思いました。そこで、校長先生に聞いてみたところ、来年度、鏡地区に高知市の事業計画で、光ファイバー回線が敷設されることを知りました。光ファイバー回線が敷設されると、インターネットの通信速度が速くなることや、ビデオ通話の際に音声や画像の遅延がなくなったり、防災無線の音声は格段にクリアになったりするなど、様々な利点があることがわかりましたが、同時に疑問も湧いてきました。

鏡地区に住んでいる方は高齢の方が多いため、災害があった時、様々な不便さに直面します。一般的には災害の際、威力を発揮する携帯電話やスマートフォンを持っていないご家庭も少なくありません。そこで、防災無線等の他、どのようにこの事業を私たち鏡地区住民が理解し、活用していけばいいのか教えていただけないでしょうか。

また、高齢者の方やネット環境のない家庭にもインターネットの良さを理解していただくためにも、鏡図書館に住民が利用できるインターネット機器を置いていただけないでしょうか。そうすることで、図書館としての機能も充実する上に、コミュニティの場としても防災に必要な「人のつながり」を築ける場となり、鏡地区住民にとっては大変ありがたいです。

小松もこ 副議長：

松島副市長。

松島 副市長：

鏡地区の光ファイバー敷設につきまして、中川議員からのご質問に対してお答えをさせていただきます。

現在、鏡・土佐山地域におきましては、高知市の補助事業を活用いたしまして、NTT西日本が光ファイバーの整備事業を進めておりまして、現時点での予定ですけれども、来年3月から光ブロードバンドサービスが開始される見込みとなっています。

光ファイバー回線による通信速度の向上というのは、学校教育において様々な変化をもたらしまして、また住民の皆様にとりましても、新型コロナの感染拡大を受けてのテレワークですとか、あとは遠隔教育、また遠隔医療、こういった「新たな生活様式」といったものの実現にも寄与するものと考えてございます。

一方で、先ほどご指摘もあったように、鏡・土佐山地域というのは高齢者の方が多くございますし、これまでインターネットを活用されていない場合は、個人での利用もそうなんですけれども、地域で実際の現実的な利活用方法につきまして、なかなかイメージすることが難しいんじゃないかというふうに考えております。

そういったこともありまして、昨年11月には、いわゆる光ファイバーサービス開始時におきます地域振興に向けての行政サービスを検討するにあたりまして、アンケート調査を実施させていただいたところございまして、鏡小学校ですと25軒、鏡中学校ですと21軒のご家庭からご回答いただき、その実態を把握するとともに、ICT利活用にあたってのご意見をさまざまいただいたところでございます。

そのなかで、いったんご紹介させていただきますけれども、たとえばリモート学習ですとか、高齢者の見守り、また健康維持、防災関連情報を含みます生活情報の共有、農作業の負担軽減また効率化、そして猿とか猪とかいろいろいると思うのですが、いわゆる有害鳥獣対策、また移住、定住、交流人口の拡大、こういったことへの利活用について、幅広くご意見をいただいたところでございます。

また、高知市におきましては、昨年11月から本年の3月にかけて5回ほど開催いたしました、地域の代表の方々、また学識経験者や、ICTの専門家の方々を委員とする「鏡・土佐山ブロードバンド利活用協議会」を開催させていただきまして、地域での利活用方法について検討を重ねまして、5月に中間とりまとめということで一定の方向性をご提言いただいたところです。

このように中間とりまとめというもので、100ページぐらい、しっかりとまとめていただきましたので、こういったものを参考にさせていただきたいと考えてございます。

高知市といたしましては、現在、鏡・土佐山地域におけるICT利活用の具体的な事業化に向けた検討を進めておりまして、今後とも地域課題を解決し住民の方々の生活の質の向上に資する事業ですとか、先ほど来、話が出ております高齢者の方々、こういった方も含めまして利用しやすい環境整備、こういったことを促進するとともに、これも質問でご指摘あったように、公共施設や公民館などで、地域住民同士の新たなコミュニティの創出を期待できるような、いわゆるデジタル化、このような活用を進めてまいりたいと考えております。

小松もこ 副議長：

17番。横浜中学校，岡田健太郎議員。マイクをオンにして質問してください。

横浜中学校 岡田健太郎 議員：

横浜中学校の岡田健太郎です。横浜中学校前の通学路を自転車用と歩行者用に分けていただくことを要望します。

この意見は実際に横浜中学校通学路で事故が起こった際に先生方と生徒会執行部で話し合っただけのものではないです。そこで、私は道路での自転車と歩行者の事故への対策はどのようなことがされているか調べてみました。

資料の提示をお願いします。これはスターバックス潮江店の前の赤色と緑色で自転車用と歩行者用に分けられている道路です。

横浜中学校の通学路は坂道のため自転車を降りて登校する人やスピードを出して下校する人が多くいます。並列運転になり幅をとることで地域の方の進路妨害や、歩行者と接触してしまう事故も多発しています。資料の提示を終わります。

横浜中学校の通学路となっている道は横浜中学校の生徒だけでなく、多くの地域の方が使用する場でもあります。事故防止や機能性をよくするためにも資料のような自転車用と歩行者用に分ける道にしてほしいです。ご検討よろしくをお願いします。

小松もこ 副議長：

岡崎都市建設部長。

岡崎 都市建設部長：

始めに、横浜中学校の皆さんにおかれましては、年間を通じまして、地域の方々と共に道路の清掃や、街路樹周りの草引き、また、学校で育てた花を、マラソン大会に参加された方々に配布する活動や、季節ごとに地域にお配りをしておるプランターの植え替えを行っていただくなど、日頃から、地域と道路の美化活動に、ご協力いただいておりますことに、感謝を申し上げます。

それでは、横浜中学校前の歩道を、自転車用と歩行者用に分けることはできないか、というご質問にお答えをいたします。

岡田議員から、ご紹介のありました、国道の歩道につきまして、道路を管理しております、国土交通省に伺ったところ、この歩道は、以前から通学や通勤で利用者が非常に多く、危険な状況が見受けられたことから、上空の電線を地中に埋めて、電柱を無くす工事と併せて、安全で快適な通行ができるように検討を行ったということでございます。

一般的に歩道を分離するための法令等に基づく基準では、通行できる幅が原則4メートル以上で、白線を引いて分離する必要がございますが、この区間は、一部4メートル未満の箇所があり、白線で分離することができないことから、自転車用は緑色、歩行者用は赤色に路面を色分けし、見ために互いの利用範囲が分かるよう、整備を実施したとお聞きしております。

一方で、ご質問の歩道につきましては、私も現地の方を見て来ましたが、住宅地の中を真っすぐ伸びた急な坂道の途中に正門があり、自然と自転車のスピードが出やすい環境であること、また、住宅地の中ということで、一般の通行者も多いことから、歩道を分離することは、事故防止などの安全面において、高い効果が期待できます。

ただ、学校前の歩道には、街路樹が一定間隔で植えられておりますことから、実際に通行できる幅が、約2.8メートルとなっておりますことから、法令等に基づく基準に合致しないため、白線を引いて分離することはできませんが、さきの国道の歩道のように、見た目に自転車と歩行者のお互いの利用範囲が分かるよう、路面を色分けすることは、実施できると考えております。

通学路の安全対策につきましては、学校、地域、教育委員会、警察、道路の管理者などと、「通学路における危険箇所の合同点検」を行い、通学路安全プログラムとして掲載し、学校安全対策事業として、国から費用の補助を受けることが必要となります。現在、この合同点検の実施におきまして、教育委員会と協議を進めておきまして、点検実施の際には、地域の皆様や警察など、関係者のご意見もお伺いしながら、具体的な対策について検討を進めてまいりたいと考えております。

最後になりますが、事故を防止するためには、このような道路の整備をすることも重要でございますが、やはり、交通ルールを守っていただくことが、大切であると考えておりますので、生徒の皆様も、引き続き交通ルールを守り、事故のない安全で、楽しい学生生活を送っていただきたいと願っております。

小松もこ 副議長：

18番。春野中学校、結城匠輝議員。マイクをオンにして質問してください。

春野中学校 結城匠輝 議員：

春野中学校の結城匠輝です。自転車ヘルメットの無料化について要望します。

春野中学校は毎年、自転車による事故とそれによる怪我が大変多いのが現状です。命に係わる大きな怪我也これまでに何度か起きています。そこで、本校のヘルメット着用率を調べたところ、1割未満ととても低い値であることがわかりました。ヘルメットの着用率が低い理由として、ヘルメットを持っていないという人が多いです。高知市がヘルメット購入用の補助金を出して下さっていることは知っていますが、実際に購入にいたらない家庭が多いようです。

また、春野中学校の校舎は大変古いため、地震が起きた時に、天井や壁などから、多くの落下物が想定されます。それなのに、避難時に必ず守らなくてはならない頭部を守る手段がありません。通学時のヘルメットがあれば交通事故の被害を最小限にでき、教室の身近なところに置いておくことで、非常時には建物の落下物などから頭部を守ることができると思います。

そこで、ヘルメットを生徒全員に配っていただくことはできないでしょうか。

小松もこ 副議長：

山本教育長。

山本 教育長：

結城議員のご質問を含めまして、今議会において自転車用ヘルメットに関する質問が3問ございました。ヘルメットを着用することにより、「通学時等の安全対策に資する」ことを目的とした、「自転車ヘルメット購入助成事業」を平成31年度に開始してから3年目を迎え、生徒の皆様が自らヘルメット着用の必要性を認識しているものと感じており、大変うれしく思います。

さて、ヘルメットを中学校の生徒全員に配付できないかとのご質問についてでございますが、仮に、

高知市においてヘルメットを配付する場合、本市中学校の生徒約 5500 人に配布をした場合、初年度は単価を 4000 円として約 2200 万円の予算を要し、その後も毎年新 1 年生に対して約 700 万円が必要となります。本市の財政状況を考えると厳しいものがあります。また、全生徒に支給できたとしても、支給された生徒さんに実際に自転車乗車時に着用していただかないと、生徒の安全を守るという目的は達成できませんので、着用の義務化とセットで制度化することが必要ではないかと考えております。

次に、校舎が古く、地震が起きた時に天井や壁など多くの落下物を心配されておられました。これは南海地震時発生時の対応策について、避難時を含めて具体的に検討されるなかで、気付かれたことではないかと思えます。非常に重要なことですので、引き続き検討していただきたいというふうに思えます。なお、春野中学校の北舎、南西舎、体育館は、平成 12 年に耐震補強工事を実施しております。また、南東舎は昭和 57 年に建築された新しい耐震基準の建物になっております。これらの工事によりまして、南海トラフ地震時における建物の一定の安全性は確保されていると考えております。これに全生徒がヘルメットを備えておけば、さらに安全性は高まりますけれども、その場合、多くの生徒が自転車乗車時に着用しているメッシュ状のヘルメットではなく、昔ながらの白い、頭全体を覆うヘルメットが望ましいのではないかと考えております。

教育委員会では、生徒さんが自主的にヘルメットを着用することが望ましいと考えておりますので、「自転車ヘルメット購入助成事業」により、ヘルメットを購入した場合、2,000円を上限に助成する制度を実施しております。また、生活の苦しい世帯には本市独自でさらに2,000円を上乗せする制度もございます。このためまずは、購入したヘルメットを確実に着用に結びつけるため、ヘルメット着用の必要性についてご家庭内で話し合っただき、この制度を利用しての購入をお願いしたいというふうに考えます。なお、ヘルメットの支給につきましては、「登下校時におけるヘルメット着用の推進に関わる協議会」に諮りまして、有効性等について御意見を伺いながら、教育委員会においてももう少し検討をさせていただきたいと考えております。

小松もこ 副議長：

19番。行川学園，香川七海議員。マイクをオンにして質問してください。

行川学園 香川七海 議員：

義務教育学校行川学園の香川七海です。今回、質問したいのは学力向上についてです。私は7年生から行川学園に通っています。小学生と一緒に活動する中で、小学生のために開かれている放課後児童クラブや、放課後子ども教室においても、学力向上に向けてできることがあるのではないかと考えました。いろいろと調べて、まず私たち中学生が子ども教室を訪問し、活動することができる仕組みを作っていただきたいと考えようになりました。

私は当初、中学生が勉強のお手伝いをすることが、学力向上への第一歩であると考えていました。しかし実際に子ども教室を訪問して様子を観察し、支援員さんの話を聞くことで、次に挙げるような実情が見えてきました。こちらをご覧ください。この日は天候が雨であったため、すべての児童が屋内で活動していました。また、一斉下校の日でもあったため、屋内が非常に混雑していて支援員の先生方も、トラブル等が起こらないよう気を配っていらっしゃいました。

この訪問で私が気づいたことを3つ挙げます。「小学生は宿題を終わらせてから遊んでいるため、支援員さんが宿題を手伝うことはあまりない。」「実際に忙しいのは、全学年が一斉に下校するとき。」

「6年生が上級生として下級生を導いている。」ということです。

これらのことから、学習活動を手伝う、という事より遊びや活動を通して小学生の学習のお手伝いをするのが大切であることがわかりました。また、私自身の学力に対する考えも変わってきました。

文部科学省が求めている学力の一つに、「学びに向かう力、人間性等」というものがあります。これは、学習プリントをやるだけで、身に付くものではありません。普段の生活や放課後子ども教室等で人との関わり方を学んだり、遊ぶことの楽しさを学んだりすることによって、学んだことを生かして考えたり、協力したりすることを通して、少しずつ身に付くものだと考えています。そこで、例えば放課後児童クラブや、放課後子ども教室において、私たち中学生が訪問し、活動することができる取組について質問します。どうぞよろしくお願いいたします。

小松もこ 副議長：

山崎こども未来部長。

山崎 こども未来部長：

放課後児童クラブと放課後子ども教室に、中学生が訪問し、活動する取組について、子供たちの資質・能力の育成の観点から、運営の実態を踏まえ、それから現場の状況も確認していただいたうえで、的確なご質問をいただきましたことに、まずは、感謝を申し上げます。

本市では、市立小学校・義務教育学校 41 校のうち、放課後児童クラブを 35 校、放課後子ども教室・学習室を 41 校で実施しております。

このうち放課後児童クラブでは、これまでも夏休み等の長期休業日に中学生・高校生のボランティア活動を受け入れておまして、子供たちは、年齢も近く親しみやすいボランティアの皆さんと過ごすことにより、友達との関わりや日常生活におけるルール等を学ぶ貴重な機会となっております、たいへん感謝をしているところでございます。

次に、放課後子ども教室・学習室では、子供たちに、勉強やスポーツ・文化活動、交流活動等の取組を実施することにより、地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進しており、中学生に訪問、支援していただくことは、こうした趣旨に合致するものと考えております。

具体的なボランティアの受け入れにつきましては、放課後子ども教室・学習室の運営をお願いしております、PTAなど地域の皆さまで構成する団体にご相談のうえ進めてまいります。

放課後児童クラブや放課後子ども教室・学習室では、子供たちの健全な育成を図り、放課後の安全・安心な居場所を確保するとともに、異年齢の交流促進により、精神的な発達や豊かな人間性の育成も目指しておりますので、質問議員さんにおかれましては、これからも、ご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

小松もこ 副議長：

20番。土佐山学舎、中野瑚春議員。マイクをオンにして質問してください。

土佐山学舎 中野瑚春 議員：

土佐山学舎の中野瑚春です。私は、中山間地域を盛り上げるための取組の質問と土佐山学への連携

協力について要望します。

1つ目は中山間地域を盛り上げるための取組についてです。皆さん、土佐山や鏡地区などの中山間地域を訪れたことはありますか。自然が豊かで地域の特産物が多いことが中山間地域の魅力です。高知市総合計画では「市域を構成する中山間地域，都市部が持つ多様な特性を活かしたバランスの取れた発展を目指しています。」と記されています。私たち土佐山地区では，学校や庁舎が集まっている中心部でさえ閑散としています。そこで，高知市は中山間地域を盛り上げるため，具体的にどのような取組をしているのか知りたいと思いました。

2つ目は土佐山学への連携協力についてです。私たち，土佐山学舎では総合的な学習の時間を土佐山学という学びの時間にあてています。土佐山の食や文化，史跡など地域の方から様々な魅力を学び，それをPRすることで地域に貢献するという学習です。これまでに，海外の方との交流，ゆずまつりや観光バスツアーの開催，観光名所をモチーフにした文房具の開発，地元食材を使ったお弁当の開発・販売，CM制作，観光案内板の設置などを行ってきました。その結果，土佐山地区が盛り上がり，地域貢献を実感することはできるのですが，あくまでも一時的なもので，中山間地域を発展させるという目指していた未来像には，ほど遠い結果で終わってしまうことが多々あります。

そこで高知市のお力添えがあれば，より多くの人に土佐山を一時的ではなく継続的にPR出来ると考えました。中山間地域を盛り上げようと学習をしている私たちを，どうか応援していただけませんか。高知市として何か私たちの学習に協力していただきたいです。ご回答よろしく申し上げます。

小松もこ 副議長：

島津農林水産部長。

島津 農林水産部長：

まず1つ目の中山間地域を発展させるための高知市の取組についてお答えをいたします。

本市の中山間地域は，豊かな自然や特産物など，市民だけでなく県内外の観光客も引きつける様々な資源を持つ一方で，高齢化や人口減少などの難しい課題もございます。

中山間地域の活性化には，地域の魅力を全国に発信しながら人の流れを作る取組とともに，地域に住み続けていただくための取組を進めることが大切と考えております。

具体的には，中山間地域の特産品の付加価値を高める取組への支援や，地域で子育てをしながら暮らしていただける住宅の提供，企業や移住希望者に対してのシェアオフィスの利用支援など，様々なアプローチで中山間地域の振興を目指しております。

また，先ほど鏡中学校の議員さんの方からもご質問ございましたが，通信環境の面におきましては，鏡・土佐山地区において，来年3月からのサービス開始を目指して光ファイバーの整備を進めております。地域の代表者の方々を含むメンバーで構成されました協議会におきまして，高齢者の見守りや健康維持の他，さまざまなご意見をいただき，現在，利活用策を検討しているところでございます。

今後も，地域の皆様の御意見をお聞きしながら，また，新しいアイデアや技術を取り入れ，様々な施策を効果的に組み合わせながら，本市の中山間地域の持続的発展を支援してまいります。

次に2つ目の土佐山学への連携協力についてお答えいたします。中野議員からご紹介いただきましたが，土佐山学舎の皆様にはこれまで，土佐山地区の様々な分野のことについて学び，発表し，イベント等の実施を通じまして，土佐山地区のPRに取り組んでいただいておりますことに感謝を申し上げ

げます。

今後、更に多くの方々に向け、これらのPRを効果的に行っていく方法の一つとして、インターネットを活用した情報発信は欠かせないと思っております。土佐山学舎では、既にホームページやSNSのアカウントをお持ちですので、こちらを活用することと合わせて、本市のホームページやSNSを通じてのPRを協力させていただきたいと思えます。

また、昨年度の土佐山学舎の9年生が、グループに分かれて地域の魅力を伝えるCM動画を制作したというニュースを見させていただきました。本市の動画チャンネルでも御紹介をさせていただいておりますが、素晴らしい作品でしたので、これらのCM動画も、ぜひ地域の良さを伝えるツールとして活用してまいりましょう。

これらのCM動画は、2～3分という短い時間ですが、制作に至るまでに、地域のことを取材され、学んでこられたことが凝縮されており、このように皆様の言葉で伝え、残していくことが、次の学年、その次の学年へと少しずつでも繋がっていくことではないかと考えております。

これからも、土佐山学舎の皆様には、地域に貢献したいという思い、継続的にPRしていきたいという思いを大切にさせていただきまして、本市といたしましてもこれらの思いをしっかり受け止め、応援し、一緒に地域振興へ向けて、協力してまいりたいと考えております。

小松もこ 副議長：

7番。一宮中学校、山本愛純議員。マイクをオンにして質問してください。

一宮中学校 山本愛純 議員：

一宮中学校の山本愛純です。自転車乗車時のヘルメット着用義務化についてお伺いします。

高知市では、中高生のほとんどが通学手段として自転車を利用していますが、その中でヘルメットを着用している人はごく少数となっています。実際に私の通っている一宮中学校でも着用している人は全校生徒547人に対し、20人未満と、着用率がかなり低いことがうかがえます。かぶっていない人の中には、周りのみんながかぶっていないから、自分もかぶらないという考えの人もいるようです。

一宮中学校の校区は、交通量が多く、近頃事故も多発しているため、早急にこの状況を改善する必要があると考えました。

学生たちが周りの目を気にせず安心してヘルメットを着用できるようにするためにも、自転車乗車時のヘルメット着用義務化は必要であると考えますが、そのことについてどうお考えか、教えていただきたいです。

小松もこ 副議長：

谷脇市民協働部長。

谷脇 市民協働部長：

多くの学校の生徒の皆さんに、自転車に乗る際のヘルメット着用や交通安全について真剣に考えていただいていることを大変ありがたく思います。

自転車乗車時のヘルメット着用を促す取組は、高知県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例に基づき進めているものですが、この条例には、学校では、「校長は、児童、生徒又は学生が

自転車の安全で適正な利用に関する活動を自ら進んで実践するよう配慮する」、また家庭では、「保護者は、その保護する児童等が自転車を利用するときは、乗車用ヘルメットを着用させるよう努めなければならない」と規定がございませう。

自転車乗車時にヘルメットを着用することは、万が一の事故の際に命を守るという点でその効果が大きいことは言うまでもなく、それは、子供にも大人にも言えることですので、その着用を義務付けすることも一つの考え方であると思ひます。しかし義務付けするという強制的な手段の前に、まずは、市民一人一人が、「命を守る」ということを自ら考え、ヘルメット着用の必要性を理解し、行動に移すことができるようにしていくことが重要だと考えています。

そこで、高知市では、小・中学校などで行っている交通安全教室での啓発のほか、交通安全運動週間や毎月15日の「自転車の安全利用を徹底する日」の街頭指導や広報車による街宣活動などを通じて、広く市民の方に向けてヘルメット着用を呼び掛けたり、交通安全に関わる関係団体が協力して開催をしている交通安全ひろば等のイベントで、自転車の安全利用に役立つ交通ルールクイズやヘルメットの展示等を行い、子供から大人まで、すべての方にヘルメット着用の重要性を理解していただく取組を行っています。

また、教育委員会をはじめ高知市役所の職員が率先してヘルメットを着用しようという取組も行っています。

一宮中学校の皆さんも、校区内で交通事故が多発する現状を改善したいとの思いをもっているものと思ひます。そうした思いをもった皆さんが、率先してヘルメットを着用することで、地域に、そして社会全体に良い影響を及ぼすことができると考えます。強制ではなく自分自身が理解し、考え、一歩踏み出していただけると大変うれしく思ひます。

小松もこ 副議長：

21番。高知商業高等学校、藤村しおり議員。マイクをオンにして質問してください。

高知商業高等学校 藤村しおり 議員：

高知商業高校の藤村しおりです。本日はこのような場をいただきありがとうございます。

皆さんは現在の高知市の大きな問題は何かとお考えでしょうか。私は、複数あげられる問題の一つに人口減少があると考えています。こちらをご覧ください。これは2010年から2035年の高知市の人口推移を予測し、5年ごとに表したものです。このグラフを見てわかるように、人口減少問題はこれからも高知市の大きな課題になると考えられています。そこで、私は今回のこうち志議会に向けて、高知商業高校に通っている3年生にアンケートを実施しました。

1問目の高校卒業後、「高知に住み続けたいか」という質問に対し、「ずっと住み続けたい」と答えた人が16%、「一度は進学や就職で離れてもいずれは高知に戻りたい」と答えた人が27%という結果になりました。

2問目の「高校卒業後、進学もしくは就職を希望する地域はどこか」という質問に対しては、「高知市内」「高知県内」と答えた人が合計で36%という結果になりました。

このアンケート結果を通して、高校卒業後、高知にずっと住み続けたいと考えている人は、そう多くはないことが分かりました。このアンケートを通して、私は高知市の人口減少を少しでも歯止めをかけ、高知をもっと盛り上げたい、という考えが強くなりました。

私は、この問題を解決するために、高知市で働いている大人の方々、そして高知市の未来を担う高校生、就学前教育を受けている子供たちの三者がお互いに学び合い、高知市を発展させられるような仕組みを作りたいと考えました。

その詳しい例がこちらになります。まず、子供たちが作った農作物を私たち高校生と企業の方々が商品化します。ここでの子供のサポートは高校生やプロの方が行います。そして、子供と高校生、企業の方々が協力し、販売活動を行うというものです。この仕組みを作ることにより生まれるメリットは3つあります。

1つ目は、ご協力してくださった企業の方々が、高校生や子供たちと関わることで新しい目線で高知市を見て、新たなビジネスプランやアイデアを高知市に還元していただけるということです。

2つ目は、子供たちに、高知で働くことの楽しさやすばらしさを知ってもらい、将来、高知市で活躍できる人材を確保することです。

そして3つ目は、私たち高校生が企業の方々と関わることで、実社会につながり、社会人レベルのビジネスマナーを身に付けることができ、子供たちや企業の方々との関わりから学んだことを進路実現に活かすことができるということです。

現在、私は企業の方々と協力し、「社会人レベルの商品開発」に挑戦しています。商品開発を行うにあたり、企業の方々は私たちに、「一緒に商品開発をすることで、あなたたちは会社に新しい発想をたくさん運んできてくれます。私たちももっと頑張らなければと思わせてくれます。」と言ってくださいました。この言葉から私は、高知市内の立場が違う人たちが協力しあうことで、高知市の活性化につながるのではないかと考えました。

また、高知商業生に「就学前教育を受けている子供たちと関わりたいと思うか」とアンケートをとった結果、「関わりたい」と答えた人が53%と、半分以上の生徒が子供たちと関わることを前向きに考えていました。

この仕組みが成り立つことで、子供たちと高校生に高知市の魅力を再発見してもらい、将来、高知市で働いてもらえるようになると考えます。そして、高知市の人口減少に歯止めをかけられると考え、提案させていただきました。

高知市として、このような機会を設けることはできないでしょうか。どうぞ、よろしくお願い致します。

小松もこ 副議長：

岡崎市長。

岡崎 市長：

具体的な提案をいただきまして、ありがとうございます。高知市役所でも、いろいろなアンケートをとっておりますが、高校生に対するアンケートというものは少ないので、非常に参考になります。逆に我々としては、少しショックな数字があがってきましたので、まだまだ、いろいろな考え方を広げていかなければならないということであらためて感じたところでもございます。

現在、高知商業のアンケートの中にも一部表れていましたけれども、高知市から県外へ転出されている特に若い方々、転出する機会というのは二つありまして、一つは大学等、もしくは専門学校への進学の際に県外へ転出されるというのが一つのパターン。もう一つはですね、県外の大学、専門学

校へ行かれて、高知県に一度帰ってきたけど、仕事の関係、就職の関係で、またあらためて20代になってからもう一回出ていくというパターンが見受けられます。

令和2年、調査をしたなかでは、15歳から24歳の年齢層の方々の県外への転出超過数が非常に多くて、転入はもともと少ないんですけど、転入と転出の差、いわゆる転出超過数というのは800人ぐらい県外へ出ているという数字になっておりますので、非常に若い方々が県外へ転出する、しかも、そのなかで女性が一定の割合を占めているというのが現状となっております。

高知市としましても、できるかぎりですね、例えば一回県外の学校へ出られても、できるだけ帰ってきていただきたいということで、例えば「U I Jターン」。高知市役所の採用のなかでもですね、Uターン、Iターン、Jターンの採用枠というものを持っておりますし、我々も、県庁、市役所含めてですね、できるだけ、ふるさと高知へ帰ってもらうきっかけになるようにというものを、いろいろと考えているところでございます。

また、だいたい年間600人から800人ぐらい県外へ転出超過になっていきますので、逆に言うと県外から移住をしてもらうという政策にも積極的に取り組んでおります。現在だいたい、200組から300組弱が1年間に県外から移住で転入しているのが、組数にしまして、300前後ということになっておりますので、一定の転入はありますけれども、まだいろいろなこれからの政策の展開を考えていかなければならないというふうに考えております。

特に高知商業高校におかれましては、「地方創生プロジェクト」というチームを立ち上げていただきまして、生徒会の執行部の皆さまなどが、人口減少の分析、その対処法などを考えていただいております。「高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議」の委員でもあります、東森さんをコーディネーターとして派遣をいたしております、いろいろな意見交換をしながら商品開発にも取り組んでいただいております。

現在、果物のグアバなどを栽培している農園と、除菌シートなどを手掛けます製紙会社と一緒に商品開発に取り組んでいただいているということも聞いております。これまで高知商業、さまざまな商品の開発をしていただいております、現在は定番になりました商品もいくつかあるという状況でもございます。

ご提案のように、企業様と高知商業の生徒さんが、例えばコラボで組んでいただきますと企業さんが非常に喜んでくださるとともに、非常に積極的に商品開発に関わってくれるという効果もあるというふうに我々は見えておまして、皆様方の活躍にいつもエールを送っております。

また、コロナの関係でいろいろ行動に制約はあると思いますが、11月のはりまや橋ストリートフェスティバル。また大変人気があります、高知商業の市商祭、お祭りですけれども、ちょっとコロナの関係で限定的になったようにも思いますが、コロナ前までは高知商業でも、商業で開発された新商品を売る、いわゆる高知商業祭はすごいにぎわいを見せておりました。これらの取組に感謝申し上げますとともに皆様方いろいろなアイデアをお持ちですので、それを我々は応援をしていきたいと思えますし、商品がいいものが開発できたら、それを売るためのさまざまなバックアップの支援ということも、我々もお手伝いをさせていただきますので、また、いい企画を期待しております。今後ともに頑張っていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願います。

小松もこ 副議長：

以上で、通告による質問は全て終わりました。

この度、田所優空議員他20名から、令和3年度こうち志議会宣言が提出されました。内容を説明させていただきます。

事務局長：

これより、浅野朱音議長、小松もこ副議長が、令和3年度こうち志議会宣言を読み上げます。

浅野朱音 議長 小松もこ 副議長：

こうち志議会宣言。

小松もこ 副議長：

私たち志議会議員一同は、本日、令和3年度こうち志議会を終えるにあたって、人と人とのつながりの輪を大切にし、豊かな自然と活気があふれる都市、高知を目指して次のことを宣言します。

1 共生と安心の環

私たち学生は、これからの社会を担うという大きな役割があります。そんな私たちだからこそ、誰もが生きがいをもち、助け合って生活できる地域社会づくりに貢献します。そのためにも、日々のコミュニケーションを大切にし、互いを尊重する気持ちをもって、生活していきます。さらには、高知の豊かな自然を守り、人と自然が共に歩んでいける未来を目指すとともに環境問題に対する関心を持ち、高知市から人とその他の生物が共生できる社会をつくっていきます。

2 育みの環

私たちは、これから、豊かな人間性や社会性を身に付け、社会の一員として高知の未来を担う人材となれるように努力していきます。そのために、地域との協力や世代を超えた交流を積極的に行うことで、様々な知恵や文化に触れ、親しむようにします。さらに、自ら学びたいという姿勢を大切にし、現代社会において必要なICT技術等を身に付けるなど、日々の学習にしっかりと取り組んでいきます。

浅野朱音 議長：

3 地産とまちの環

高知市の人々の温かい心や訪れる人をやさしく包み込む力が、高知のまちや産業を活性化する原動力となっています。このことを忘れず、私たち若者は、高知の歴史や文化、それぞれの地域の特性を学び、高知市の未来を創る一員として成長していきます。また、安全で災害に強く、住み続けたいと思えるまちにするため、通学時の交通安全や防災について自ら学び、行動を起こします。

4 自立の環

高知市の伝統的な文化、豊かな自然、産物、そして県民の温かい人柄は世界に通用する財産です。この財産を私たち若者が受け継いでいくとともに、発展させ、国内外に高知市の良さを発信するインフルエンサーとなり、「高知に行きたい」「高知で住みたい」という思いを引き出していくため、高知の魅力を伝え続けます。そのためにも、日々の学校生活や生徒会活動での学びの中で、私たちを取り

巻く地域そして世界とつながり、新たな風をもたらすことのできる持続可能な活動に挑戦していきます。

今回のこうち志議会を通して、高知市の文化や魅力に改めて気付くことができたとともに、高知市が抱える課題を学び向き合うことができました。この経験から、高知の伝統を守り、新しい高知を創っていくのは私たち若者であり、その志を持つことが大切だということを実感できました。

そして、その行動として、18歳になった時に、自らの志を持って選挙に行くことが重要であり、その行動が若者の高知市に対する意識の向上につながると考えます。ずっと住み続けたいと思える高知市の実現のためには、私たち自身が高知市のことを考え、持続的に変化し続けることのできる存在にならなくてはいけません。高知を創っていくチームの一員としての自覚を持ちまちづくりに参加していきます。

令和3年8月25日。令和3年度こうち志議会議員一同。

浅野朱音 議長：

議長を交代いたしました。これより採決いたします。令和3年度こうち志議会宣言に賛成の皆さんの挙手を求めます。全員挙手しています。よって令和3年度こうち志議会宣言は、原案のとおり可決されました。

閉会に当たり岡崎市長からご挨拶があります。岡崎市長。

岡崎市長：

先ほどは、素晴らしい「こうち志議会宣言」を採択していただきまして、御礼を申し上げたいと思います。特に、このコロナの中ですけれども、高知のよさを発信して世界とつながるといのが、非常に心に残ったところでもございます。コロナ禍の中で非常に閉塞感がある、ここ1、2年ですけれども「こうち志議会」の開催にあたりましては、生徒議員の23名のみなさん、そして円滑に議事を運営をしていただきました浅野議長さん、小松副議長さんをはじめ、関係者の皆様のご協力によりまして、志議会をオンラインではございましたけれども、無事に開催することができました。また、本日の23名の議員の皆様方からは、さまざまな分野にわたりまして、それぞれ時宜を得た、今の時代にふさわしいご質問を大変多くいただきまして、論点を整理するのに皆様方、たくさんいろいろな話し合いをしたと思います。その点にも感謝申し上げたいと思います。

我々、それぞれの部局で、それぞれ答弁をいたしましたけれども、まだ十分な答弁ができていない項目もありましたので、この皆様方のいただきましたご提言を我々執行部としてもさらに深く掘り下げながら、今後の施策に活かしていきたいというふうに考えております。

それぞれ、この採択されました「こうち志議会の宣言」ですけれども、共生と安心の環から最後の自立の環まで、これは総合計画のですね、流れに沿いまして非常にいい宣言を取りまとめていただいております。これは議長の浅野さん、副議長の小松さんをはじめですね、それぞれ取りまとめにご協力いただいたというふうにも聞いておりますので、この宣言文、非常にいい宣言ですので、我々もいただきましたので、提案を今後活かしていきたいというふうに思っております。

コロナ禍の中でいろいろ制約がありますけれども、また9月から学校が再開をされますので、皆様方におかれましては感染予防の徹底をしていただきながら、また、皆様方のご活躍をお祈りをしております。ともに頑張っていきたいと思っております。今日はどうもお世話になりました。ありがとうございました。

浅野朱音 議長：

議員の皆さん、お疲れさまでした。また、岡崎市長をはじめとする執行部の方々、ご丁寧な答弁をありがとうございました。さらに、本日、お忙しい中、傍聴していただきました皆様方に心から感謝いたします。

これにて、令和3年度こうち志議会を閉会いたします。